

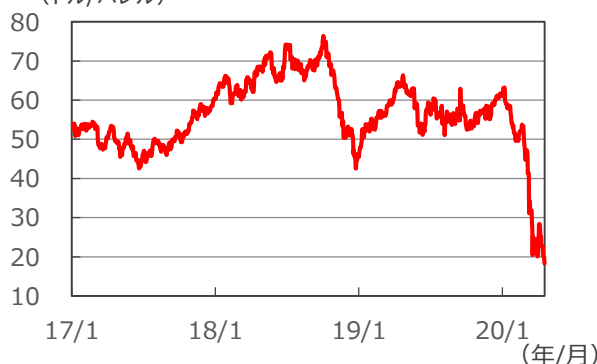


今日のトピック 協調減産復帰も原油価格は下落続く（2020年4月）
原油価格は火種を残したまま、新型コロナ収束を待つ

ポイント1 大幅減産も原油価格は下落

- 北米の代表的な原油価格であるWTIは、3月、新型コロナによる需要減少に加え、協調減産協議が決裂したため急落しました。一旦は「大幅減産合意へ」との報道から、28米ドル台まで上昇しましたが、再度下落に転じています。
- 4月12日には石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の主要産油国で構成するOPECプラスが、5～6月に日量970万バレルの減産を行うと発表しました。減産量は過去に例のない規模ですが、依然として供給過剰を解消することは難しいとの見方が多く、17日のWTIは18米ドル台まで下落しました。なお、20日は清算日前日というテクニカルな要因もあり、5月物は史上初のマイナス価格となりましたが、期先の6月物は20米ドル台で推移しています。

【WTI原油価格】



(注) データは2017年1月1日～2020年4月17日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
世界需要	98.8	99.7	92.8
供給	99.1	99.1	92.8
非OPEC	67.7	69.8	68.3
OPEC	31.3	29.3	24.5
需給バランス	0.2	▲ 0.6	0.0

(注1) 需給バランス=供給-需要。

(注2) 単位は百万バレル（日量）。

(注3) 2018年は実績。2019年は実績見込み。2020年はOPECによる予想。ただし、2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。

(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。

(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 2020年の原油需要見通しは大幅下方修正

- 16日に公表されたOPEC月報の4月号では、2020年の世界の原油需要予想は日量9,282万バレルと、前月見通しから691万バレルもの大幅下方修正となりました。
- 2020年の原油需要を前年比で見ると、OPECは日量685万バレルの減少と予想しているのに対し、国際エネルギー機関（IEA）は同930万バレルの減少と見ています。特に、4～6月はOPECの同1,186万バレルに対して、IEAは同2,310万バレルの需要減少と見ており、ギャップが大きくなっています。

今後の展開 原油価格は火種を残したまま、新型コロナ収束を待つ

- 今回、原油生産の1割という歴史的な減産発表にも拘らず、原油価格は下落しました。新型コロナ感染拡大による需要減少が減産量を上回り続ければ、産油国は追加の減産を迫られると見られます。一方、今後、新型コロナ収束による経済活動の正常化が見通せれば、原油価格は上昇に転じる可能性があります。協調減産に明確なコミットをしていない米国がシェアを伸ばすという火種も残ります。

ここもチェック! 2020年4月 8日 各国・地域は『新型コロナ経済対策』を発動
2020年3月13日 協調減産破綻で原油価格大幅下落（2020年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。